



堂島コメ平均って何？

◆未来の取引を約束／価格変動への備え

Q－「堂島コメ平均」って何かしら。

A－全国の主食用米の平均価格を指数化した数値（米穀指数）と、それを対象に取引を行う商品先物取引のことをいいます。

この仕組みは、江戸時代の1730年に大坂の堂島米会所（現在の堂島取引所）に導入された世界初の先物取引「帳合（ちょうあい）米（まい）取引」が起源とされています。何度かの廃止・復活を経て、2024年8月に上場先物銘柄として再登場しました。

Q－「商品先物取引」ってどういうもののなの。

A－原油や金、穀物などの商品を、将来の一定期日に買う（売る）ことを約束して、その価格を現時点で決める取引です。期日までに「反対売買」（買ったものを売る／売ったものを買い戻す）をすれば、差額を清算する「差金決済」で取引を終了することができます。

堂島コメ平均の先物取引は、現物の米をやり取りせず、価格差だけで清算する取引です。例えば、将来米の価格が上がると思えば最初に「買い」を、下がると思えば「売り」から取引を始めて、後に反対売買をすることで、利益を得られる可能性があります。

Q－どういうことに役立つのかな。

A－大きく二つの意義があります。一つ目は、「価格変動のリスクを減らす手段」です。米の価格が上昇する場合、卸売業者などの仕入れコストが増える可能性があります。現物の取引とは別に先物取引で「買い」の取引を行っていれば、先物取引の利益によって、現物取引の損失を補うことができます。

二つ目は、「米の価格動向を知るための指標」としての役割です。これまで米の価格動向を把握するうえで参考にされてきた「相対取引価格」と比べ、「堂島コメ平均」は、より敏感に価格の動向を反映すると言われています。実際に、政府備蓄米の随意契約による流通開始が報道されると、堂島コメ平均は急落しました。

ただし、堂島コメ平均は市場規模がまだ小さくなく、発展途上にあります。今後、取引の拡大とともにその活用が広がることで、卸売・小売業者が価格変動に備えやすくなり、私たち消費者の混乱が軽減されていくことを期待したいですね。

（この連載は北陸経済研究所の藤貴伸が担当しました）

